

小坂町防災会 活動の軌跡

第1回小坂町防災会防災訓練開催

11月3日を『小坂町防災の日』と定め、1回目の訓練以来、毎年同日に小坂町防災会防災訓練を開催している。
町内の各団体に協力を要請し、役割分担の確認や実働を行っている。

2018年西日本豪雨

3日間の避難所運営や1週間にわたる断水停電に対応。10回以上積み重ねてきた訓練が実践で大いに役立つ。訓練マニュアル以上に現場での柔軟な判断が必要とされた。人と人のつながりの大切さ『顔の見える町づくり』の大切さを身をもって実感した期間であった。
各地域ごとに浸水や土砂被害などあったが、近助を中心として協力の輪が広がった。



ブラインド型訓練へ移行

この年より、防災訓練の事前準備を最小限にし、発災時刻を告知せず行う『ブラインド型』に移行した。何もない状態からスタートし、より本番の状況を体感し、実践に活かすための振り返りを重視した。参加者の多くから生の意見が寄せられるため、課題が噴出するが、実際の活動にとっては実り多い訓練となっている。



2004 小坂町防災会設立

2004年に小坂町内会と小坂団地自治会が中心となって、「小坂町防災会」を設立。以来、小坂町防災会では警報発表や避難レベル3が発令された時には、毎回災害対策本部並びに自主避難所を開設してきている。『顔の見える町づくり』を目指して、町内でのイベントも含め活動を繰り返している。

熊本地震への 災害ボランティア派遣

初めて災害ボランティア参加。現場での実体験が後の防災会活動に生かされた。



長野豪雨災害への 災害ボランティア派遣

西日本豪雨の経験を活かし、積極的かつ現実的な活動を行う。行政との折衝も含め有意義な活動となった。



能登半島地震への 災害ボランティア派遣

2024年11月と2025年3月の2度にわたって輪島市へ災害ボランティアとして参加。インフラ復旧が取り残されていること、ボランティアがイベント的になっていることなど考えさせられる事柄が多数あった。

